

巻頭写真 北海道東部西別湿原のヤチカンバ
Betula ovalifolia in the Nishibetsu Mire, eastern Hokkaido

ヤチカンバ *Betula ovalifolia* Rupr. は更別湿原と西別湿原の2カ所のみで自生するカバノキ属の低木種である(本号 pp. 37–52 参照)。両湿原ともかつてはかなりの広さのある湿原でヤチカンバの生育地も広がったが、開発により大部分が失われ、今では限られた面積となっている。西別湿原ではチャミズゴケを中心とするブルトが発達し、ブルト上にガンコウラン、イソツツジ、ツルコケモモなどとともヤチカンバが生育している(写真1)。ブルトにはヤチカンバの枝が複数本突き出ているが、これが1個体の別な枝なのか、一枝ごとに個体が違うのか、あるいは元々1個体だったものが分かれたものなのかは分かっていない。牛の侵入によって壊されたブルトで観察した限りでは間近にある枝はミズゴケ中で枝分かれしており、ブルト上面から40 cm くらいまでの深さところでも茎が続いていて、ミズゴケ中に出た不定根以外の根はもっと深いところにあり確認できていない。牛によって攪乱を受けた部分では実生の発生が確認されている。

西別湿原でヤチカンバが花粉を飛ばし始めるのは5月20日頃で、枝の先端付近に雄花序を着け、その手前の側芽が展葉して雌花序が現れる。葉はやや厚く、長さ2–6 cm、幅1.5–5 cm ほどの楕円形～卵円形で先端はやや尖る(写真2)。果穂は太さ7–10 mm、長さ2–3 cm の楕円形～円柱形で、通常2枚の葉をつける短枝先端に直立あるいは斜上する(写真2)。樹皮は灰白～灰色でダケカンバなどのように薄く剥げることはない。9月に入ると果穂は緑色から褐色に熟し、開いて果鱗が脱落を始めるが、その時期は個体により



写真1 西別湿原 III 区(別海町町有地)のヤチカンバ湿原。



写真2 ヤチカンバの葉と果穂。



写真3 湿原周辺の亜高木林内の株立ちのヤチカンバ。

幅があり、他の個体が未だ緑色の9月上旬に褐変するものもあれば雪が来ても未だ果軸に鱗片がついているものもある。

ヤチカンバは高層湿原内ではミズゴケブルト上に出ている枝が10 cm に満たない小さな個体から地際から多数の枝を分出させ、高さ1.5 m くらいまでなる個体があるが、湿原周辺部のハンノキ、ノリウツギ、バッコヤナギなどからなる亜高木林には幹が3–5 m に達する亜高木状の個体が生育する(写真3)。幹は多くは多幹だが、中には単幹の個体もある。一方、湿原周囲の排水路の掘りあげ

土上には多数の幹を地際から分出し、枝の広がりがよく、高さ2 mに達する「大きな低木」のヤチカンバが旺盛に繁茂する(写真4)。

排水路掘りあげ土上の旺盛なヤチカンバ個体に混じって、単幹あるいは少数本の幹を持ち、樹高が5 mに達し、樹皮が白色で薄く剥げ、葉が大きく、広卵形で先端が少し伸びて尖る葉を持つ個体(写真5)がある。これらが「推定雑種」である。国安・高橋(2007)は樹形、幹の形状、葉の形態などからIII区に隣接する放棄牧草地の排水路の掘りあげ土上にある9個体を推定雑種とし、形態比較から両親はダケカンバとヤチカンバと考えた。一方、III区の排水路の掘りあげ土上にも推定雑種と見なせる個体が少なからずある。

その外部形態は岡安・高橋(2007)によく一致し、そのうちのいくつかの個体についてDNA解析が行われ、ダケカンバとヤチカンバの雑種であることが確認されている(Shiotani et al., 2021)。さらに、Shiotani et al. (2021)は高層湿原部分には雑種個体は侵入していないとしたが、これは筆者らによる高層湿原内の個体の外部形態の観察結果と矛盾しない。これらのことは1980年代以降の湿原牧草地化の際の排水路掘削で出来た「裸地」に発芽生育した個体の中に雑種個体が混じっていることを示唆する。



写真5 推定雑種個体の葉と果穂。



写真4 排水路掘りあげ土上の旺盛なヤチカンバ。

アポイカンバ *Betula apoiensis* Nakai は日高の様似町のアポイ岳の山頂から延びる超塩基性岩が露出した尾根にのみ生育する低木である。DNA解析でヤチカンバとダケカンバの雑種であることが確認されている(Nagamitsu et al., 2006)。岡安・高橋(2007)は西別湿原の推定雑種個体の葉の形態はアポイカンバによく一致するがアポイカンバより大きいと述べているが、その分類学的取り扱いは明らかにしていない。アポイカンバは特殊な環境に適応したダケカンバとヤチカンバの雑種の一型である可能性が考えられる。

引用文献

- 国安 岳・高橋英樹. 2007. 北海道別海町西別湿原で見出されたヤチカンバの推定雑種個体. 植物地理・分類研究 55: 37-40.
- Nagamitsu, T., Kawahara, T. & Kanazashi, A. 2006. Endemic dwarf birch *Betula apoiensis* (Betulaceae) is a hybrid that originated from *Betula ermanii* and *Betula ovalifolia*. *Plant Species Biology* 21: 19-29.
- Shiotani, Y., Fukuda, T., Marchuk, E. A., Krestov, P. V., Peterunenko, E. A., Bondarchuk, S. N., Nishikawa, Y., Shimamura, T., Fujimura, Y. & Nakamura, K. 2021. Parentage of hybrids in a disturbed population of *Betula ovalifolia* endangered in Japan and suggestions for conservation management. 日本植物分類学会第20回大会講演要旨集, 31.

(鈴木三男 Mitsuo Suzuki)